

論 文 要 旨

氏名	高橋 由希子
タイトル	終末期がん患者に対する口腔ケアが口腔関連 QOL におよぼす効果
<p>論文の要旨：本研究の目的は、口腔ケアが終末期がん患者の口腔関連 QOL におよぼす効果について検討することである。</p> <p>終末期がん患者 20 名に対し、口腔ケアによる介入を行い、介入前後で口腔内診査と QOL 評価票 2 種を指標として QOL を定量的に評価し、介入の効果を検討した。</p> <p>口腔ケア介入前後の General Oral Health Assessment Index の日本語版を使用法のみ一部改変した尺度(以下 GOHAI(改変)とする)に関して有意差は認められなかったが、口腔ケア介入前後 GOHAI(改変)スコア変化量と口腔ケア介入回数との間には弱い相関が認められた。すなわち、口腔ケアによる介入が、口腔に関連した QOL に影響をおよぼす可能性が示唆された。</p> <p>また、初回診査時と 1 か月後の M.D. Anderson Symptom Inventory (M.D アンダーソンセンター版症状評価票)の日本語版 (略称:MDASI-J)支障スコアを比較検討すると、有意差が認められ、全身の QOL は低下していることが示された。その際、MDASI-J 支障スコア変化量と口腔ケア介入回数との間に弱い相関が認められた。すなわち、口腔ケアの実施により、末期がんにおける全身 QOL の低下を軽減する可能性が示された。</p> <p>本研究より、口腔ケア介入前後 1 か月の期間において、終末期がん患者の全身状態の悪化が認められたものの、口腔ケアによる介入が、被験者の生活における前向きな気持ちや活動に対する意欲の維持に正の影響をおよぼすことが示された。</p>	